

門弟三猿か父は佐野川市松と申せしか四代目

名人團藏乃門に入り荒五郎と名乗其伴照世は

古人歌川豊国の仲立にて予か弟子となり改名

四度にして二代目團十郎大拍薙乃初名を

ゆつり九蔵と改るされは重縁なるかゆへに

五代目團藏實ひ請度よし于契約

ありしか彼是ととりまき體延引せり今年

難波なる三河屋乃老梅なき事をうれい

約束乃よしみをとつて申越せしにより未熟

なるものに高名乃跡を残する事とはなりぬ

四方乃君子捨腹はすえたまへと寿之述

七代目／市川白猿

動かせる誓も幾代／むすふ縁

いのれやねかへ／御ひあきの／名は

なき丈の約せし事乃たかわて／成田屋うしの仲立により

年頃乃顔最にたりければ

霜風に桜木／落つて舎かな

三河屋／婦亭

市川乃流れ一すしにして／みますより三升にうつるも

慈沙慈丹の影によれり拙き云／申せすとも御存乃

君遅く先祖の余光をもつて／御引立を希乃み

拍手をむすひ／あわせて／御鬘貞乃

恵みを願ひ／上升乃紋

九蔵改／六代目市川團蔵

難波津の舞台に／昇進乃眉をひく三猿を賀

寒梅乃其間も／光る立鏡

松寿軒

又乃ゆるしを以て／難波の高名を／相続なす事

先祖のちなみ家の／栄なれはともに／御ひるきを願ふ

八代目／市川團十郎

市川や／氷らぬ水の／水かたき